

総務文教委員会記録

令和6年1月10日（水）
9時59分～11時32分

【委員】 芦谷委員長、沖田副委員長、村武委員、岡本委員、永見委員、西田委員
【議長・委員外議員】
【事務局】 松井書記

【議題】

- 1 取組課題について（委員間で協議）
- 2 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 59 分 開議]

○芦谷委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。

今日は、取組課題のテーマの候補となっている「買い物弱者の現状と対策」と「スポーツ施設の再配置」の2点について皆に意見を出してもらい、方向性が出せればと思っている。

1 取組課題について（委員間で協議）

○芦谷委員長

まず、「買い物弱者の現状と対策」について皆に意見を出してもらったので、順に説明してもらい、それを受けて質疑を行いたい。

○村武委員

（ 以下、資料を基に説明 ）

○岡本委員

（ 以下、資料を基に説明 ）

○永見委員

（ 以下、資料を基に説明 ）

○西田委員

（ 以下、資料を基に説明 ）

○沖田副委員長

（ 以下、資料を基に説明 ）

○芦谷委員長

（ 以下、資料を基に説明 ）

続けて、それぞれが提案された内容について考えてもらい、自由に質問、討論したい。

○岡本委員

日々変化していることを調査し、実態を知ることは大事だと思う。私も執行部の話を聞いたり自分の活動の中で感じるくらいのこと、どう変化しているかの実態はよく分からなかった。これまでにやっている情報があればそれも入れながら、今の情勢がコロナ禍の前後でどう変化したかも含めていろいろな調査をすることは大事だと思うので、この点は外さない必要があると思う。

また、移動販売の話が出た。そういう方々は多分自分たちで考えながらやっているのだが、我々委員会が調査したことを企業や店に情報提供して、この地区では今こういうことが求められているという情報を伝えるのも大事な議員活動だと思っているので、その辺も組み込んだらどうかと思った。

○村武委員

住民ニーズを把握することが必要だと皆言われたが、これは本当に大切だと思う。以前は浜田市社会福祉協議会が生活支援コーディネーターをしていたが、今年度からは市の直営になった。社会福祉協議会の生活支援コーディネーターはかなり地域に出掛けて、買い物弱者といったところまでかなり細かく調査されていたと思う。それが市の直営になって、どの程度引き継がれているか分からない。我々は福祉を所管していないが、買い物弱者についてはそこも大きく関わってくると思うので、そういったところを聞いてみるのも一つの手だと思う。

沖田副委員長が、予約型乗合タクシーは今あまり使われてないのではないかと問われたが、私もそれを感じており、うまく利用している地域もあるが、どういったところがうまくいってないのか、うまくやっていくためにはどうしたら良いか考えたり、もしかしたら予約型乗合タクシーではなく、別のものが必要なかもしれない。それを調査することは良いと思う。

○西田委員

先日近くのまちづくりセンター長に、総務文教委員会で買い物弱者のテーマを扱っているという話をしたところ、そのセンター長から、村武委員が言われた「とくし丸」の代表の人が浜田に来ていろいろな話をされたと聞いた。あそこは結構進んでいて、広範囲に全国展開されているので良いことだと思うが、「とくし丸」と浜田市の現状を比較すると、同じようにするのはなかなか厳しいと言われていた。

○村武委員

厳しいとはどういうことか。

○西田委員

例えば浜田市では、岡見地区まちづくり推進委員会が空き店舗を借りて週1回、毎週水曜日に店舗を開き、キヌヤサンプル店から移動販売に来てもらっている。旭のまんてんは移動販売車で地域の独居高齢者の安否確認を含めた活動をしている。岡見の移動販売車は軽トラックで積載量が限られているので、少し遅れていくと欲しい物がなかったりする。それと、生鮮食品は余ってもキヌヤが引き取らないので、持って出たら売り尽くさないといけない。「とくし丸」は持って出て販売して、売れ残ったら引き取ってくれるらしい。浜田で地元の店舗がもし関われるとするならば、どういう協力をしてもらえるかも話合いが必要かもしれないし、行政的な支援もどれくらいまでできるかなど、いろいろと課題がある。

○村武委員

「とくし丸」のような取組が全国的に広がっているのは、やりやすさや成果が出ているからだと思うので、そこは調べてみたいと思った。ただ、浜田市が一度呼んで講演会などを行っているのであれば、担当課が細かいところまで知っていると思うので、そこも聞いてみたい。

○永見委員

買い物弱者の状況は各地区によって皆異なっていると思う。移動販売もエリアがだんだん狭まっていて、採算が合わないからやめたといった話をよく聞くので、そのあ

たりの現状もしっかり確認したらどうか。

買い物バスをやっている地域があるし、私は昨日金城の美又まちづくりセンターに行ってあいのりタクシーの話をしてきたが、美又の人は江津市の都野津に買い物に行っており、1月中に2、3回計画されていた。このように、やっているとところとやっていないところがあるので、そこを十分把握して、今はあいのりタクシーの補助金の一つのまちづくり推進委員会に80万円まで出るので、それを活用すれば買い物には十分役立つのではないかと思う。また、私の地元の今福地区まちづくり委員会では第1、第3週に「もやい市」という市をやっているが、野菜や魚、生鮮食品だけで生活用品がないため、今は月2回のうち1回は、添乗員付きのバスに乗って、キヌヤで生活用品を買えるようなツアーをやっている。それから、山間部のため、冬場は雪で市が開けないので、浜田や都野津への買い物支援をしたらどうかと計画している。旭町や金城町小国地区も確かそのような形でやっている。

地域性があるのでほかの地域に馴染むかどうかは分からないが、そのあたりもしっかり確認して、利用者のニーズを聞いて、調査研究したらどうかと思う。

○岡本委員

永見委員の話の中に、移動販売へ買いに来る人がだんだん少なくなったという話が出たが、それはなぜなのか。

○永見委員

以前は旭町から弥栄町門田のあたりまで足を延ばしていたが、利用者が年々少なくなってきて、行っても採算が合わないので、この頃は行ってないのではないかと思う。

○岡本委員

我々が買い物弱者を何とかしようと言っても、買い物弱者はだんだん減ってくる。そこに向けて業者に移動販売しようと言っても難しい。今もうやっているのだから、そこへ議会がどう提案するのか。西田委員は三隅のことをしっかり言われた。今福地区は良くやっていると思った。議会側からどういう提案ができるのか。実態はもちろん調べなければいけないが、そこに行き着かなくなるのではないかと思ったがどうか。

○永見委員

今福地区がこれをやり始めた経緯は、中山間地域等直接支払制度の関係である。国県市からの補助金の中に特別加算というものがあり、その中に集落機能強化加算というものがあり、その中に高齢者の見守りと買い物支援という項目があり、それに取り組めば補助金がある程度もらえるので、まずその補助金をもらって買い物支援をやっていた。ただこれも、今度新しく農村RMOができ、中山間地域等直接支払制度の特別加算がRMOへ移行するという話も出ている。今福地区はあくまでもその助成金をもって買い物支援をしており、浜田市からの支援はもらっていない。

○岡本委員

しかし、どこかから支援はもらっているということで、逆に考えると、その支援が終わればできなくなる。着地点は何かと言えば、地域で自立してくれという話なのだが、自立できない。

○永見委員

あとはまちづくり総合交付金の活用を、課題解決の関係を含めて資金を調達しようと、今いろいろと協議している状況である。

○岡本委員

そういう状況の中で議会はどのような提案ができるのかと言えば、提案しようがないのではないか。

○永見委員

今福地区の場合は今そういう形でやっている。ほかの地区がどのようにやっているかは全く分からない。

○芦谷委員長

中山間地域等直接支払制度があるのは分かっている。所管は農林振興課である。今大事なのは、そういうことをやっているところが市内のあちこちにあるはずなので、その実態を把握しないといけない。社会福祉関係だけではなく、農林の関係の事業もあったりする。

○西田委員

中山間地域等直接支払制度で買い物支援をするというのは、具体的にはどういうことか。まんてんの移動販売にもそういうものが組み込まれているのかもしれないが、それ以外の地域で買い物弱者への支援をするのは、地域で何か上乘せしているのか。

○永見委員

先ほど言ったように、事業の必須項目で高齢者の見守りや買い物支援がある。その中から最低二つ選んでやると面積に合わせた補助金がもらえる。

○西田委員

具体的には、地域の誰かが買い物弱者の人を乗せて買い物に連れて行くのか。

○永見委員

もらった補助金は、まちづくりの中にそういう部会を作って、それでバスをチャーターするなどして買い物に連れて行く形である。

○芦谷委員長

主体が別々になる可能性がある。今の場合には、まちづくり委員会なり自治会なりにそのお金が入ってから、まちづくり委員会や自治会が主体で事業をしているのか。

○永見委員

まちづくり組織の中に中山間地域等直接支払制度の関係の部会を設けて、そこに合算している。確か小国地区もそのようにしている。

○芦谷委員長

今言われたことは大変重い問題なので、ぜひ、我々が持っている情報以外の、中山間地域等直接支払制度なども含めて実態を把握して、その事業をどの地区でやっているのかという把握も必要だと思った。

○岡本委員

委員長が言うように実態は調べておいたほうが良い。三隅は例えば買い物に困って

いるから住民が文句を言っている環境もあるだろう。旧浜田市内では例えば生協を利用している人がいれば、ゆめタウンなどのスーパーに買い物に行っている高齢者もいる。敬老乗車券がもっと欲しいと言われるが、それは買い物というより通院やちょっとした用事でタクシーを使うということがあって、そういう実態も把握しないといけない。

共通して言えることは、独居になり、買い物に行かずに閉じこもってしまうことがすごく問題だと思う。孤独死が何件も出ているという話も聞く。国の考えもそこにあったと思うが、それと同じような実態がここにあるということをお話したい。

○芦谷委員長

今の話は、福祉や高齢者の話に軸足がある。総務文教委員会で一体どの辺まで見れば良いのか、議論を聞きながら悩んでいる。

○西田委員

福祉にも関わるし、いろいろと関わりとずっと思っているが、総務文教委員会で言うと、高齢者の移動手段を何年か前にもテーマで取り上げ、視察も行った。移動手段は過去からの課題でやっていることなので、総務文教委員会的に言うとやはり移動手段のあり方だと思う。

○沖田副委員長

今は買い物弱者と言われる年齢の方々は80歳前半から中盤くらいだと思う。いわゆる団塊の世代、今75歳を回っている方があと5年したら、かなりの確率で免許返納の話が出てくる。そうなったときに石見交通のバスを利用するかと言えば、恐らく利用しないのではないかなと思う。そうなったときに、こういった田舎の行政は効率的に地域交通を考えていかないといけないと思う。石見交通の有福線が浜田市だけで800万円の補助金を出していたが、運んでいるのは1日1人や2人だったりして、それはとても無駄ではないか。それを考えると、民間のタクシー会社を効率的に使っていくことはこれから絶対に出てくる課題だと思っている。買い物も確かに大事だが、それも含めた移動手段というものに総務文教委員会は注力すべきではないかと皆の話を聞いていて思った。

○岡本委員

高齢者が免許返納していることは実態としては分かっているが、それだと不便だということで二の足を踏んでいる状態があるだろうと思っている。車は自動運転や半自動運転にシフトしつつあるので、実態を調べたほうが良いのではないかな。例えば団塊の世代にアンケートして、免許返納が推進されているがどうかといった問い掛けをするのも、実態を調べる上では必要だと思う。いずれは返納しなければいけないが、多分そこまでいかないような気がしており、そのためにも調べたらどうか。総務文教委員会がやるのは福祉の視点ではなく、交通環境をどう整備していくかということに軸足を置いて、そこにつながる形で進めたらどうかと思った。

○芦谷委員長

話を聞きながら思うのだが、間口が広すぎて入りにくい部分がある。ヒアリングな

どももちろんだが、できれば所管課やまちづくりセンターを含めて、関係先に調査依頼して、少し資料やデータを集めて、移動手段と買い物の二つに絞るにして実態を把握してからのほうが良い感じがした。中山間地域等直接支払制度なども含めて、市内ではどうなっているのかということ、フォーマットを作って関係機関に問い合わせ、それで全体を把握するのも一つの方法だと思う。

○岡本委員

私は市の担当課もまちづくりセンターもそういう資料は持っていないと思う。アンケートを取って実態を調査しているのを見たことがないので、そういうことをやっているのかを確認しながら進めたほうが良い。担当者の肌感覚だけでやっていくとその辺だけ重くなってそこに軸足が置かれるのはおかしいので、それも併せて問合せをしたらどうか。執行部に頼ったやり方は実際どうなのだろうかと思う。

○芦谷委員長

大分話が進んだ。これからの一步の踏み出し方について、意見があればお願いする。暫時休憩する。

[10 時 45 分 休憩]

[11 時 09 分 再開]

○芦谷委員長

休憩前に引き続いて委員会を再開する。

今後の進め方、特に調査先や内容について、委員から意見を出してもらってまとめたい。

○岡本委員

買い物や通院などへの移動手段に視点を置いて、現在執行部は地域公共交通計画を作成中なので、これまでの取組について調査依頼して、その報告をもらって検討するという事かどうか。

○村武委員

特に今浜田市が行っている予約型乗合タクシーやあいのりタクシー、農林の中山間地域等直接支払制度などの実態について聞いてみたい。

○芦谷委員長

村武委員が言われた予約型乗合タクシーやあいのりタクシーは、まちづくりセンターでそういった統括をしているところにヒアリング調査をするということか。

○村武委員

直接まちづくりセンターに出向くのが良いのか、担当課でもある程度把握していると思うので、まずそこに聞いても良いと思う。

○芦谷委員長

副委員長から何かあるか。

○沖田副委員長

皆が提示した方向性で良いと思う。

○芦谷委員長

今も出たように、公共交通の所管課や、農林の中山間地域等直接支払制度、まちづくりセンターも含めて、買い物支援も含めた地域の移動手段について、関係課に調査をすることにしたいが、それで良いか。

(「はい」という声あり)

一旦休憩する。

[11 時 12 分 休憩]

[11 時 30 分 再開]

○芦谷委員長

委員会を再開する。続いて「スポーツ施設の再配置」について、このテーマはどうしたら良いか。皆の意見を聞きたい。

○西田委員

今日は取組課題のテーマが二つ出ているが、先ほどの買い物弱者等の移動手段について、かなり熱を帯びてきている。もう一つのスポーツ施設は、市も再配置計画を立てているし、こちらとしてもいろいろな思いはあるが、産業建設委員会的な部分もあるので、総務文教委員会としては買い物弱者等の移動手段に集中したほうが良いのではないかと思う。

○芦谷委員長

今の意見についてはどうか。

(「賛成」という声あり)

ではそういうことで、買い物弱者等の移動手段について、皆からいただいた調査の視点などを大事にしながら、正副委員長と事務局で正式に案を作り、また皆に示して決定したいと思うので、よろしく願います。

2 その他

○芦谷委員長

ほかに何かないか。

(「なし」という声あり)

では、総務文教委員会を終了する。

[11 時 32 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 芦谷英夫